

経営比較分析表（平成30年度決算）

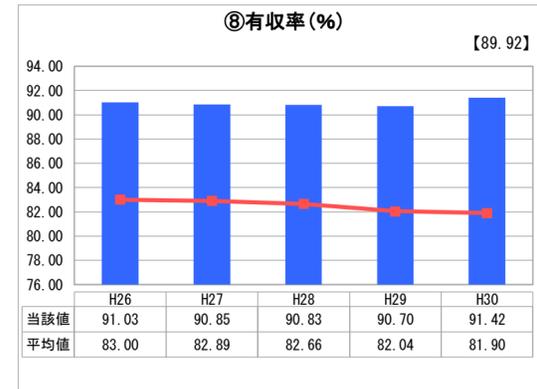
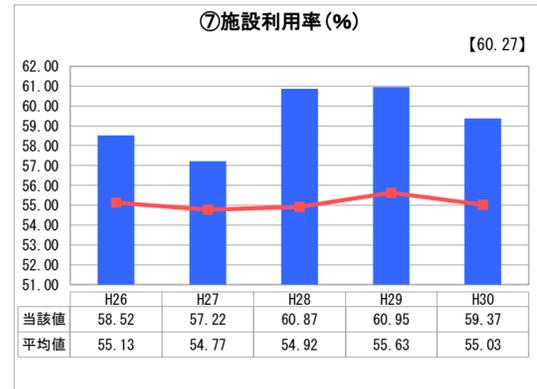
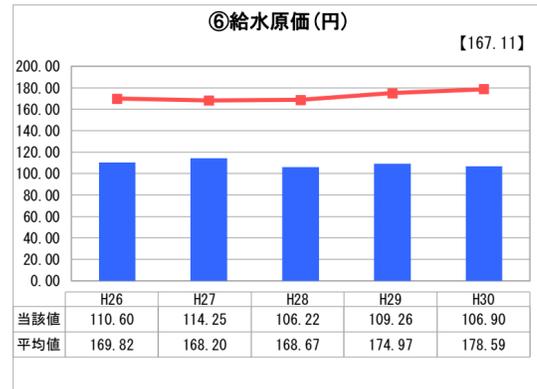
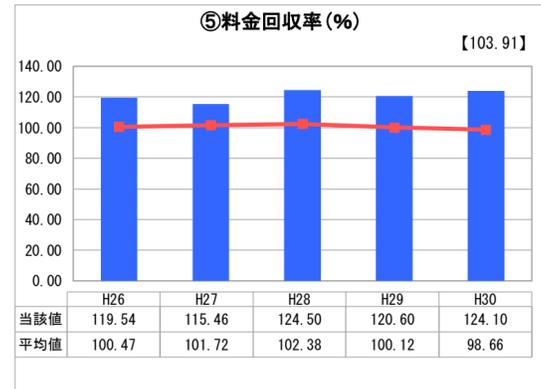
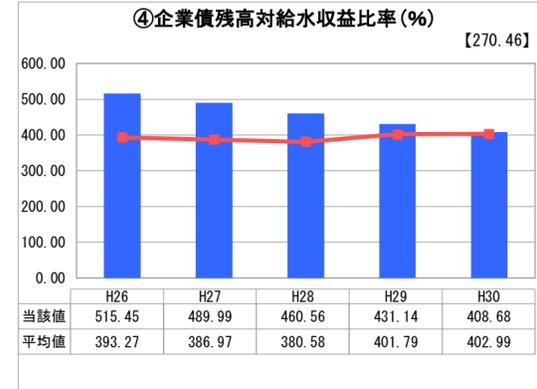
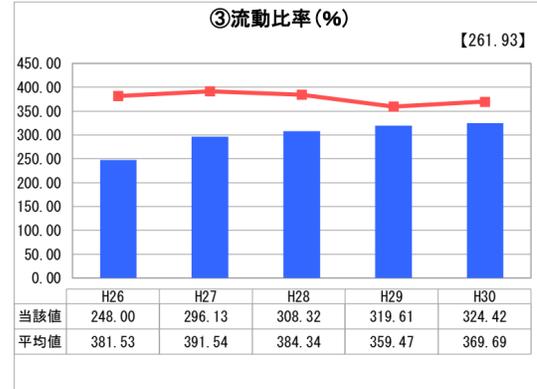
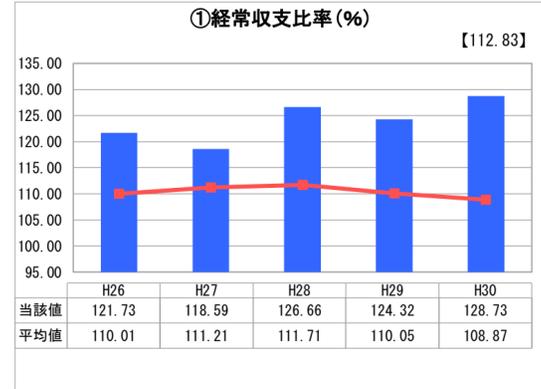
福井県 小浜市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	78.54	82.70	2,397	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,388	233.11	126.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
24,201	21.67	1,116.80

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

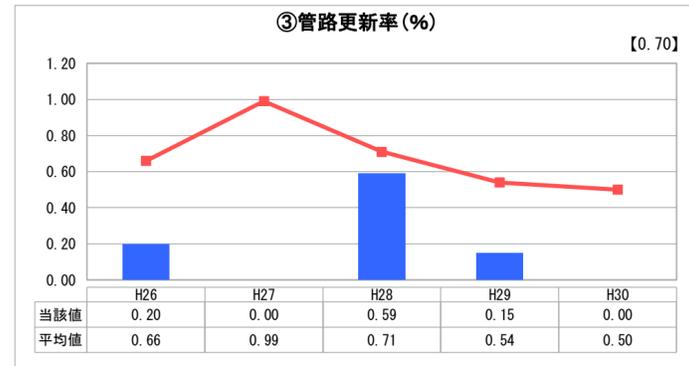
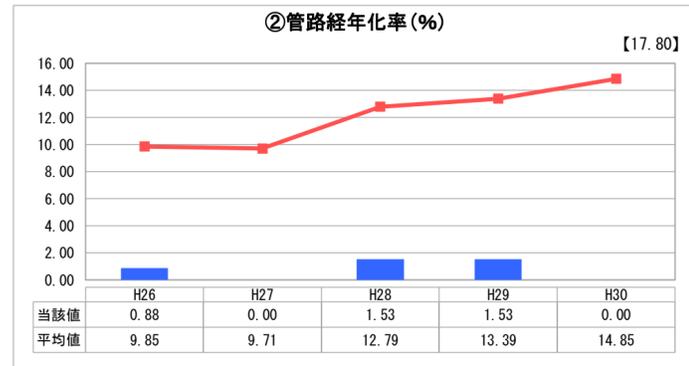
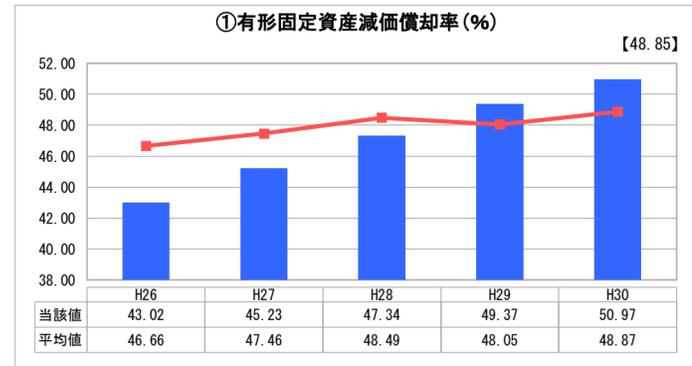
1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：類似団体の平均を上回っていること、また、昨年度より高い比率であることから、今後もこの水準を維持できるよう経営の健全化に努める。
 ② 累積欠損金比率：累積欠損金が発生しておらず、健全な状態である。
 ③ 流動比率：企業債残高の減少に伴い、流動比率が上昇傾向にある。今後も単年度中の企業債発行額が企業債償還額を上回らないように計画的に投資していきたい。
 ④ 企業債残高対給水収益比率：年々減少傾向にあるが、将来にわたり施設や管路の更新等において企業債の発行が予想されることから、水道料金の見直し等も検討する必要がある。
 ⑤ 料金回収率：100%は超えているが、給水収益の減少や将来の施設等の更新による企業債発行に伴う償還額の増加が予想され、これらを料金改定に反映し、より適正な料金設定を行い料金の回収に努める。
 ⑥ 給水原価：類似団体と比較すると低い傾向にあり、今後も、原価の抑制や漏水対策に努めていきたい。
 ⑦ 施設利用率：類似団体より高い状況であり、また、当年度の負荷率が90%近くであることから、将来的に適正な施設規模を総合的に判断していきたい。
 ⑧ 有収率：90%を超えており、目標数値に近づくよう検針時や施設巡回時に注意深く確認し、また、各施設の配水量・有収水量を分析し、漏水による水量を抑制したい。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率：約50%の水準であるが、年々施設の老朽化が進行しており、今後、給水人口の減少による収益の減少が予想される中、計画的な施設更新による事業運営をしていく必要がある。
 ② 管路経年化率：下水道事業等の工事に伴い水道管の布設替工事を行ってきたことにより、全体的に比較的新しい管路を有している。
 ③ 管路更新率：類似団体と比較すると低い状況にある。水道ビジョンを基に効率的な更新に努める。

2. 老朽化の状況



全体総括

現状、経営状態については、概ね健全であると言えるが、人口減少や節水型機器等の普及や節水意識の向上により、給水収益は年々減少することが予想される。これに伴い、経常収支の黒字が次第に減少することも予想される。
 一方で、今後、老朽化が進む施設や管路の更新を計画的に進めていく上で、安定した財源の確保が必要となり、健全な経営を維持するためには、将来、料金の改定を検討する必要がある。
 本年度完成する「小浜市水道ビジョン」を基本とし、計画の進捗状況の把握や現状の経営分析等を行い、健全な事業経営に取り組みたい。